

本庄正則メモリアル
本庄国際奨学財団 20 周年記念国際シンポジウム

お茶と歴史と文化フォーラム

開催日時

2017 年 8 月 20 日（日）13:00～15:00

目的

一世紀あまり前の 1906 年、岡倉天心は日本文化を紹介する英文著書のタイトルを『茶の本 (The Book of Tea)』としました。茶の湯を、日本の美意識や歴史、文化、生活が集約した“生の術”と考えたからです。「わび、さび」(美意識)、禅(宗教)、茶室や床の間(建築)、茶器(工芸)、生花(自然)、質素な衣服(染織)、作法(身体)など、茶人たちの発明は民衆の家庭生活まで浸透したとします。もっとも重要なのは、茶の湯やお茶が、人と人をつなぎ、共感と友和の場を作ったことでした。ここでは本セッションを茶席、各専門のご発表を“生の術”と見立て、改めて現代における学問研究とお茶文化のありようを考えてみたいと思います。

オーガナイザー

東京藝術大学教授 佐藤道信

発表

13:00～13:05 趣旨説明 (佐藤道信)

13:05～13:20 村上夏希 : イスラーム陶器 (保存科学)
「陶磁器の東西比較－日本陶磁器とイスラーム陶器を巡って－」

13:20～13:35 劉曉玉 : 陶芸
「吉州窯の木の葉天目の美学について」

13:35～13:50 朱軼姝 : 染織
「日本と中国の『茶』文化と伝統染色」

13:50～14:05 東野 アドリアナ ピッチニニ : 建築
「お茶会と国際交流：イエズス会宣教師史料と南蛮屏風から読み解く戦国時代の「茶」の空間と国際交流としての役割についての考察」

14:05～14:20 オンジェイ ヒーブル : 狂言
「日本の伝統芸能『狂言』からみた『茶の湯』の背景」

14:20～14:35 ナーラダ ラブガマ : 禅
「呼吸から得られるマインドフルネスー原始仏教を中心にー」

ディスカッション

14:35～15:00 司会 (佐藤)
パネリスト (6名)
キーワード: 「つなぐ」(めざす結論)
学際・国際研究
コミュニケーション
コミュニティ

オーディエンスの想定数

約 40 名

事前ミーティング

2017年8月18日(金) 午後7:00～午後9:00 品川プリンスホテル